

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



月刊アフリカニュース

2020 年 2 月 17 日

No. 88

目 次 (「青色文字」クリックで当該情報にジャンプします。)

巻頭言 「緊急事態の中国、薄ら寒い米国」 編集委員長 福田 米藏 2

在外公館ニュース (1/16~2/15 公開月報) 編集委員長 福田 米藏 4

[アルジェリア月報](#) (1 月) [エチオピア月報](#) (1 1 月) [ガボン月報](#) (1 2 月)
[セネガル月報](#) (1 2 月) [ナミビア月報](#) (1 2 ・ 1 月) [ブルンジ月報](#) (1 1 ・ 1 2 月)
[ベナン月報](#) (1 1 ・ 1 2 月) [ボツワナ月報](#) (1 2 月) [マラウイ月報](#) (1 2 月)
[南アフリカ月報](#) (1 2 月) [モーリタニア月報](#) (1 1 ・ 1 2 月) [ルワンダ月報](#) (1 1 月)

アフリカニュース紹介 編集委員 13

[アフリカ全般](#) [アフリカ西部とサヘル地域](#) [アフリカ西部](#) [アフリカ東部](#)
[サヘル地域](#) [アンゴラ](#) [エチオピア](#) [ガーナ](#) [ガンビア](#) [ケニア](#) [コンゴ\(民\)](#)
[スーダン](#) [ナイジェリア](#) [ブルキナファソ](#) [南アフリカ](#) [南スーダン](#) [リビア](#)

お役立ち情報の紹介 顧 問 堀内 伸介 22

[「腐敗認識指数 CPI」](#) [「2020 年世界経済予測：低成長と政策へのチャレンジ」](#)

JICA 海外協力隊寄稿

[「遊びを通した学び」](#) [一子供が自発的に楽しく学ぶためにー](#)

2018 年度 1 次隊 幼児教育 セネガル共和国
ファティック県視学官事務所 見崎 祥恵 24

インタビュー 編集委員 清水 真理子 29

[「中込 孝規 「世界とつながるダンス教室」代表 に聞く」](#)
[一人とつながり世界とつながる素晴らしさを感じてほしいー](#)



アフリカ協会からのご案内 [ー協会日誌ー](#) 事務局長 成島 利晴 34

編集・発行：一般社団法人 アフリカ協会 月刊アフリカニュース編集委員会
 編集委員長 福田 米藏 / 編集委員 エディター 高田 正典

巻頭言

「緊急事態の中国、薄ら寒い米国」

令和2年如月も10日が過ぎ、暖冬であった今年の冬がようやく本格的な寒気を迎えています。立春の4日までは札幌の雪まつりのために他所の雪をかき集めている程の雪不足が今年の話題でしたが、暦の上で春が始まった途端に寒波が襲来しており、この3～4日は東京でも最低気温が冷蔵庫内以下の気温が続いており、北風が強い日などは体が凍りそうな感覚になります。

9日には北海道旭川でマイナス36度を観測、今冬一番の冷え込みとなったようです。

零度近くなるだけで凍りそうに感じる身からは想像できない気温ですが、以前網走のオホーツク流氷館で流氷を体感した際、濡れた手ぬぐいを振り回すと数十秒でカチカチになったことを思い出しました。

正に、衣類を「着、更に着」ることにより寒さを凌ぐ季節なんだなと感心せざるを得ませんが、一方で、辺りを見回してみると待ち遠しく感じる春の息吹が木々の枝先や草むらの中に小さな蕾として顔を出しています。

さて、自然界では行きつ戻りつしながらも、着実に日が延びており暖かさも増していますが、人間界ではとても寒いニュースが続いています。

中華人民共和国湖北省武漢市で昨年12月以降、新型コロナウイルスに関連した肺炎の発生が報告されて以来、同ウイルスに感染した患者の発生が世界各地で急速に拡大しており、中国に於ける死者数は2003年に流行したSARSの世界全体の死者を上回り、1月30日にはWHOが「緊急事態」を宣言しました。

同ウイルスに感染した疑いで武漢の病院に入院されていた一人の日本人も亡くなったそうです。

ウイルスの発生源となった武漢市は1月23日以降閉鎖されており人々は家にこもるようになり市内は閑散としているようですが、この流行が収まらない限り中国経済ひいては世界経済に及ぼす影響も甚大なものとなる恐れがありますね。

巷では、新型コロナウイルスの影響により行き場を失ったり、乗船客に対する検疫、隔離に追われるクルーズ船のニュースが大きく取り上げられていますが、同時に東京オリンピック・パラリンピックが中止されるなどというデマも拡散したようです。

報道によると新型コロナウイルスによる肺炎に気付いていち早くSNS上で警告し、デマを流したとして処分された1人の医師が、同ウイルスに感染したことにより入院中でしたが7日に亡くなったそうです。

情報が溢れている現在、私達はそれぞれの情報の精度を確認しなければならず、指導者は正確な情報を提供しデマを否定しなければならないと思いますが、今回の武漢市の例を聞くにつけ、正しい情報の提供により混乱を回避する上で指導者たる者の資質が重要であると思わざるを得ません。

世界中の指導者達が皆相応しい資質を有していることを望んでいる時、米国の大統領選挙候補者指名の準備初戦たるアイオワ州党员集会が3日行われましたが、民主党党员集会では集計作業にミスがあったようで再点検の結果ようやく6日に結果が発表され、アイオワの勝者はトランプさんともいわれています。

この世の中、何が起きてもおかしくないのかも知れませんが、米国の大事な民主的手続きの最中でのミス？に薄ら寒いものを感じました。

編集委員長 福田 米蔵

在外公館ニュース

＝今月の読みどころ＝(11/16～12/15 公開月報)＝

編集委員長 福田 米藏

アルジェリア政治・経済月例報告(2020年1月)

1. 2020年予算法

1日、2020年予算法が、施行(昨年12月30日付官報で公布)。

概要は以下のとおり：

【2020年予算法が前提とする主な経済指標の予測】

- ・原油価格:50USD/1バレル(市場価格は60USD/1バレル) ・経済成長率:1.8%
- ・年平均インフレ率:4.08% ・対ドル為替レート:123DZD/1USD
- ・2020年末の外貨準備高:516億ドル(輸入高の12.4か月分)

2. 世界経済見通し(世銀)

8日、世界銀行は、最新の「世界経済見通し」(Global Economic Prospects)を発表。

アルジェリアの2020年の経済成長率を1.9%、21年及び22年をともに2.2%と予測。

また同報告書では、アルジェリアについて、「政治の不確実性が幾分か減じ、投資状況が改善されるに従って、アルジェリアの経済成長は控えめに回復することが見込まれる」「政治的行き詰まりと以前からの改革の遅れは、一部解決したものの、アルジェリアの政治の不確実性は、依然として大きい」と言及。

3. イノベーション指数

18日、米ブルームバーグ社が、2020年版「イノベーション指数(Bloomberg Innovation Index)」を発表。アルジェリアが初めてランキング圏内(60位以内)の49位に入った。

4. リビア危機

23日、アルジェリアは、リビアの近隣国であるチュニジア、エジプト、スーダン、チャド、ニジェール、マリを参集し、外相会合を開催した。同会合は、リビア人間の政治的解決が、唯一のリビア危機の解決策であると確認したうえで、同危機の食い止めを目指し、外国による干渉拒否、並びに同国への武器の輸入及び同国における武器の拡散禁止を呼びかける決定を、承認した。

5. テブン大統領

1月中、テブン大統領は、国内情勢の全般的なレビューや憲法改正についての協議を行うためとして、ベンビトゥール元首相やハムルーシュ元首相といった重鎮に加え、ジラリ新世代党首等の野党関係者や、対話主導パネル調整役を担ったカリム・ユネス氏等とも個別に会合の機会を持った。

<https://www.dz.emb-japan.go.jp/jp/news2020.01.pdf>

エチオピア月報(2019年11月)

1. シマダ県の州昇格・住民投票

20日、南部諸民族州シダマ県において、州昇格を問う住民投票が平和的に実施された。

23日、国家選挙管理委員会(NEBE)は、シダマ県の住民投票に関し、98.5%が州昇格に賛成票であるとの暫定結果を発表した。

2. グランド・エチオピア・ルネッサンス・ダム

6 日、シレン水・灌漑・エネルギー相及びゲドゥ外相は、トランプ大統領の仲介によりワシントン DC で開催された、グランド・エチオピア・ルネッサンス・ダム (GERD) に関する三ヶ国 (エチオピア・エジプト・スーダン) 会合に、出席した。

3. 外国直接投資

エチオピア投資委員会 (EIC) は、世界銀行のレポートによると、エチオピアは、東アフリカで最大の外国直接投資 (FDI) 獲得国であり、アフリカで 5 位に当たる。

2019/2020 年度 第 1 四半期におけるエチオピアへの FDI 流入額は、7 億米ドルであると述べた。

4. 投資法改正

11 月上旬に、投資法改正案が閣議に上呈された。

同改正案は、エチオピア投資委員会 (EIC) によって起草され、改正により物流、金融及び航空分野の市場開放が期待できる。

https://www.et.emb-japan.go.jp/comp_forms/%E3%80%90%E3%82%A8%E3%83%81%E3%82%AA%E3%83%94%E3%82%A2%E5%A4%A7%E3%80%91R1%E5%B9%B411%E6%9C%88%E7%89%88%E6%9C%88%E5%A0%B1.pdf

ガボン共和国月報 (2019 年 12 月)

1. ガボンの国家予算がここ 10 年で約倍増

2009 年から 2019 年にかけて、ガボンの国家予算は、1 兆 5416 億セーファから 3 兆 330 億セーファに増加した。

同期間の公務員給料総額が、倍増になったことなどが要因と考えられる。

2. ガボン・EU 間の協力関係の正常化

2016 年 8 月の大統領選結果を受けたボンゴ大統領の再選に、疑問を呈した 2017 年 9 月の欧州議会決議により冷却化したガボン・EU 協力関係が、11 月 25 日に行われた政策協議を経て、正常化に至った。

3. ジャン・ピン氏によるヌルディン・ボンゴ氏の大統領執務調整官への任命に対する批判

ジャン・ピン氏は、ヌルディン・ボンゴ氏の大統領執務調整官への任命を仄めかしつつ、ガボン政府の君主政治化を批判しつつ、フランスに平和的な政権移譲のための支援を求めるべきだと発言した。

4. IMF、信用拡大メカニズムに基づくガボン向け融資の承認

16 日、IMF は、同日に開催された IMF 理事会において、「信用拡大メカニズム」の第 4 回及び第 5 回レビューを終え、約 1 億 2350 万ドルのガボン向け融資を承認した。

https://www.ga.emb-japan.go.jp/pdf/gabon_geppo/gabon_geppo_12_2019.pdf

在セネガル日本国大使館月報 (2019 年 12 月)

1. セネガル経済・IMF の評価

持続可能な開発・債務に関する国際会議に出席するため、ダカール訪問中のゲオルギエバ IMF 専務理事は、セネガルの経済成長を高く評価。油田・ガス田開発による財政収入増 (GDP の約 1.5%) を見込みつつ、多様な経済構造を維持する必要性を強調。

2. アスワン・フォーラム

11 日～15 日、サル大統領は、エジプトで開催された平和と持続可能な開発に関するアスワン・フォーラム及び世界ユースフォーラムに出席した。

3. 持続可能な開発・債務に関する国際会議

サル大統領は 2 日、ダカルで開催された持続可能な開発・債務に関する国際会議に出席し、リスクの過大評価が対アフリカ投資を阻害していると指摘。また、UEMOA 内の収斂基準(債務比率 GDP 比 70%、財政赤字 3%)の見直しの必要性を提起。

4. 西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)首脳会議

3 日にダカルで開催された UEMOA 臨時首脳会合は、マリ、ニジェール及びブルキナファソにおけるテロとの闘いのため、1 億ドルの緊急拠出を決定(表明済みの 5 億ドルの資金拠出の一環)。

<https://www.sn.emb-japan.go.jp/files/000556030.pdf>

ナミビア月報 (2019 年 12 月)

1. ガインゴブ大統領、前回に比べ票を落とすも、第 2 期の再選を果たす。

南西アフリカ人民機構(SWAPO)勝利。

前回の 2014 年の選挙では、87%という圧倒的な票数を確保した「ガ」大統領であったが、今回は前回に比べ、およそ 30 ポイント下落し、56.3%の票を確保した。

2. ナミビア、経済を楽観視

13 日、ムーディーズによるナミビアの長期金融債務格付けの引き下げを受け、カレ・シュレットヴァイン財務大臣は、ナミビア政府が同国経済成長の見通しに対し楽観的である旨を述べた。

「シ」大臣は、2017 年の同社による降格を受けて以来、ナミビアが、マクロ財政構造を安定させており、経済を中長期的に安定した好景気へと導き、持続的な成長軌道を描くことに自信を持っている旨発言した。

3. 中国企業、9 億ナミビアドルで鉄道事業を落札

中国国有企業である中国葛洲坝集团股份有限公司(China Gezhouba Group Co., Ltd)は、9 億ナミビアドルで鉄道事業を落札した。

同事業は、ウォルビスベイ、クランツバーク間の鉄道線路の改良を目的とした案件であり、28 日間で 8900 万ナミビアドルの履行保証を義務づけられている。

<https://www.na.emb-japan.go.jp/files/000563599.pdf>

ナミビア月報 (2020 年 1 月)

1. 最新の腐敗認識指数で 2018 年に比べわずかに腐敗認識度が悪化

23 日に国際透明性機構(Transparency International)により発表された腐敗認識指数(CPI: Corruption Perceptions Index)について、ナミビアは 52 ポイントと評価された。

この指標は、180 の国・地域の公的部門の腐敗認識レベルをランク付けしたもので、0 が最も腐敗しており、100 が最も腐敗が少ないとされる。

ナミビアは 2018 年、53 ポイントであったため、1 ポイント悪化した。

2. 中国がナミビアに対する最大の直接投資国に(2019 年第 3 四半期)

ナミビア銀行が、12 月に発表した四半期報告書によれば、2019 年の第 3 四半期において、中国が 395 億ナミビアドルの FDI を保有し、ナミビアに対する最大の投資国となった。

3. 中国企業がナミビア最大のセメント会社を買収

5 日、ナミビア最大のセメント会社である「Ohorongo Cement」は、中国企業「West China Cement」に買収された旨発表した。

同社の声明では、昨年「Ohorongo Cement」の経営者が原材料の 80%以上を産出する鉱山の売却計画を発表した後、買収交渉が始まり、1 月 3 日に買収契約の合意に至ったと説明。今後、ナミビア当局の承認を受けて買収が完了することとなる。

4. ナミビアへの観光客が 2018 年 3.9%増加

ポハンバ・シフエタ環境・観光大臣は、2018 年観光統計報告書を発表し、2018 年にナミビアを訪問した観光客の数は、前年比 3.9%増加した旨述べた。

観光目的を除いた、外国人の来訪数は前年比 3.2%増加した。同報告書によると、観光目的の来訪者は、2017 年の 140 万人から 3.9%増加し、2018 年約 150 万人となった由。

<https://www.na.emb-japan.go.jp/files/000563630.pdf>

ブルンジ月報(2019 年 11 月)

1. ブルンジ政府のメディアに対する厳しい態度

19 日、ンティラムペバ(Ishidore NTIRAMPEBA)外務次官は、外交団、大使館及び NGO へのブリーフィング時に、「ブルンジ政府は、治安を脅かす目的で、報道の自由を濫用するメディアを容赦しない。」と述べた。

2. 金取引の限定に関するプレス・リリースの発表

25 日発行のプレス・リリースにおいて、マニラキザ・エネルギー・鉱業大臣は、「店頭での金の売買を中止する。ブルンジ中央銀行(BRB)のみに協同組合及び鉱山会社が生産した金の購入を許可する」と発表した。

ルフィリ(Gabriel RUFYIRI)汚職監視団 OLUCOME(当館注:民間の任意団体)団長は、政府の同決定について、ブルンジ通貨の価値を高め、BRB の金保有率を上げるとして歓迎する一方、自由競争の原理に反する可能性があると懸念を示した。

3. ニビギラ外務大臣の露訪問

4~6 日、ニビギラ外相は、ロシアを訪問し、5 日、ラヴロフ露外務大臣と政治、経済、人道分野について、二国間会談を実施。

ニビギラ外相は、露投資家のブルンジ訪問を呼び掛けるとともに、平和と安全が保障されていないとの理由で、対ブルンジ投資を禁じる国を非難した。

<https://www.rw.emb-japan.go.jp/files/000556235.pdf>

ブルンジ月報(2019年12月)

1. 2020年大統領選挙に係る一部有権者登録の実施

9～12日、2020年の大統領選挙の有権者登録が実施された。カジヒセ国立独立選挙管理委員会(CENI)委員長は、2018年5月の憲法改正のための国民投票の際に未登録であった約10万名のうち、36,000名以上の登録が完了したと述べた。

2. タンザニアに居住するブルンジ難民の自主帰還に関する三者会合の開催

11月29日、タンザニアに居住するブルンジ難民の自主帰還に関して、タンザニア、ブルンジ、UNHCR間の第21回三者会合が、ダルエスサラームで開催された。

三者会合では、タンザニアからの自主帰還原則に則り、ブルンジ難民の自主帰還の促進を継続することで一致した。

また、全ての帰還民及び自主帰還者の社会への復帰プロセスについても合意した。

3. ブルンジにおける世界エイズ撲滅デーの開催

4日の世界エイズ撲滅デーに合わせ、ブルンジにおいて式典が開催された。

ンダイゼイエ(Aime NDAYIZEYE)HIV対策国家プログラム代表は、同式典にて、

15～49歳の、ブルンジ人のHIV罹患率は、0.9%であると述べた。

<https://www.rw.emb-japan.go.jp/files/000557218.pdf>

ベナン月報(2019年11月)

1. 選挙法改正案

14日、国民議会は、7日に公布された新憲法に則った選挙法改正案を、全会一致で採択した。改正内容には、大統領、国民議会議員、地方議会議員の選挙の同時実施、独立国家選挙委員会(CENA)の改革等が含まれる。

2. IMF ミッション

6日、対ベナン拡大信用ファシリティの第5次レビューのために、ベナン訪問中のIMFミッションは、2019年第1四半期のベナン経済が、とても満足のいくものであったと評した。

3. 長者番付

2019年フォーブズ誌の長者番付によれば、タロン大統領は、仏語圏アフリカにおいて15位に位置づけられた。

(同じく、ベナン出身の実業家であるセバスチャン・アジャボン氏は17位)

4. ベナン・ニジェール間パイプライン

7日、国民議会は、本年1月23日に調印されたベナン・ニジェール間のパイプライン建設に係る協定を、批准した。

<https://www.bj.emb-japan.go.jp/files/000557398.pdf>

ベナン月報(2019年12月)

1. 2020年国家予算

19日、国民議会は、2020年の国家予算案1兆9,869億CFAフラン(約4000億円相当)を承認した。

2019年予算は、1兆8,775億CFAフランであり、前年比で5.8%増となる。

2. 人間開発指数

9 日、UNDP が公表した人間開発指数(HDI)のランキングにおいて、ベナンは全世界で 163 位、アフリカ諸國中、30 位に位置づけられた。

3. ベナンの航空会社

7 日、エホメ・インフラ運輸相は、国際民間航空機関(ICAO)の 75 周年記念式典において、ベナンの航空会社を設立することを公表した。

会社名はエール・ベナン(Air Bénin)となる予定。

4. GDP 成長率

西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)による 12 月の月例通貨政策報告によれば、ベナンの 2019 年第 3 四半期の GDP 成長率は、7.6%であった。

(同第 1 四半期 7.3%, 同第 2 四半期 7.6%, 前年同期 7.0%)

<https://www.bj.emb-japan.go.jp/files/000559369.pdf>

ボツワナ共和国月報(2019 年 12 月)

1. ボツワナ銀行、基本割引率・基準貸付利率を 4.75%に維持

5 日、ボツワナ銀行は、金融政策委員会を開催し、インフレ率が政府目標の 3~6%内となっており、価格の安定性にかかる見通しが、ポジティブであることを受け、基本割引率・基準貸付利率(注:従来の公定歩合)を、4.75%に維持する決定を公表した。

2. マシシ大統領の ACP サミット参加

9 日及び 10 日、マシシ大統領は、ケニアで開催されたアフリカ・カリブ・大洋州諸国(ACP)サミットに参加した。サミットに先立ち開催された閣僚級会合には、ユニティ・ダウ外務国際協力大臣及びペギー・セラメ投資・通商産業大臣が参加した。

コトヌー協定(注:EU と ACP 加盟国の間で結ばれた協定で、世界経済への統合を通じ貧困の撲滅を図ることが目的)のおかげで、ボツワナはヨーロッパに牛肉を輸出することができており、この協定により大きな利益を享受してきた。

3. 総選挙に係る不正申立て

ボツワナは 1965 年以来、何の問題もなく、継続して自由で公平な選挙を実施してきたことで敬意を表されており、アフリカで最も長い民主主義だと言われている。

現在、2019 年 10 月の総選挙に関し、13 の国民議会の小選挙区及び 16 の地方選挙区の結果に異議が申し立てられており、ボツワナは初めて不確かな状態に陥っている。

裁判所は、選挙が実施された日から 90 日以内に、結論を出さなければいけないことになっている。

4. カタール航空便のドーハ・ボツワナ間の運航開始

15 日、カタール航空機が、初めてセレツェ・カーマ国際空港に到着し、ツォフワネ副大統領、セホコ運輸通信大臣らが、初の到着を記念する式に出席した。

セホコ大臣は、ヨハネスブルグ経由のドーハ・ボツワナ間ルートは豊富な経済的な機会を得るために維持され、発展させられるべきである旨発言した。

<https://www.botswana.emb-japan.go.jp/files/000556290.pdf>

マラウイ月報(2019年12月)

1. 憲法裁判所審議及び調停の動き

6日、8月8日から59日間続いた大統領選挙の有効性を問う審理が終了した。

一部関係者は、審議終了後45日以内に判決が下されるとしているが、憲法裁判所は判決の具体的日時を発表していない。ポタニ裁判長は、提示された証拠からのみ判決が決定されるとし、世論でさえも本審理の判決には関係がないと述べた。

2. 葉たばこ契約栽培制度のレビュー

たばこ委員会(TC)は、マラウイは葉たばこ栽培にあたり、契約栽培制度(IPS: Integrated Production System)を、継続して実施していくべきだと発表した。

TCから依頼された外部コンサルタントにより、IPSのレビューが行われ、同制度が葉たばこの品質向上、価格の向上、農家の農業投入材へのアクセス向上等の目標を達成していると評価された。

3. インフレ率が二桁台に

10月は、9.6%であったインフレ率は0.8%上がり、11月は10.4%となった。これまで一桁台を維持していたインフレ率が、二桁台へと戻った。

食糧インフレ率が前月より1.2%増の17.2%、非食糧インフレ率は4.7%となった。

この高インフレ率は2017年6月以来である。

4. ムパタマンガ水力発電所建設のためのパートナーを募集

13日、クツァイラ・エネルギー大臣は、ブランタイヤにてムパタマンガ水力発電所を建設するための戦略的パートナーの調達手続き開始を発表した。同事業は、ピーク時に1日309MW発電能力を持つダム、下流域で41MWの発電能力を持つダムの2つのダム建設事業であり、今後6か月以内に事業開始予定となっている。

発電公社(EGENCO)が30%、国債金融公社が30%を負担する予定となっており、戦略的パートナーとなるドナーには40%負担が期待される。

<https://www.mw.emb-japan.go.jp/files/000559026.pdf>

南アフリカ月報(2019年12月)

1. 消費者物価指数(CPI)

11月の消費者物価指数(CPI)は、前月に比べ0.1%上昇した。

年間消費者物価インフレ率は3.6%と前月に比べ0.1%下落。

2. 製造業生産高

10月の製造業は、前年同月比0.8%減。10部門中7部門でマイナス成長となった。

主なマイナス要因は、木材および木材製品、紙、出版及び印刷で6.1%減。

鉄及び銅、非鉄金属、金属及び機械製品で2.2%減。

3. 鉱業生産高

10月の鉱業生産高は、前年同月比2.9%減。主なマイナス要因は、ダイヤモンドで39.3%減。一方で、鉄鉱石は11.1%増となった。

4. 南アフリカ航空(SAA)が、民事再生手続きへ

12月5日、南ア政府は、南ア国営企業の1つである南アフリカ航空(SAA)が、民事再生による破産手続きに入ることを発表した。

2011 年以降赤字が続いており、負債総額は 200 億ランド以上といわれ、主な原因はガバナンスの失敗、汚職、低コストの他航空会社との競争があげられる。

今後は、更生管財人の指導のもと、経営の立て直しを図る。

<https://www.za.emb-japan.go.jp/files/000556471.pdf>

モーリタニア月例報告 (2019 年 11 月及び 12 月)

1. 2020 年度予算案の可決

12 月 18 日朝、17 日から国民議会において審議されていた 2020 年度の当初予算法案が、賛成 84 票、反対 13 票にて可決された。2020 年度の国家予算の歳入は、603 億 3031 万 6108 ウギア(約 16 億 52 4 万米ドル)、歳出は 601 億 3326 万 6276 ウギア(約 15 億 9, 999 万米ドル)である。2019 年の改正予算法と比較し、歳出は 33 億 7197 万 1420 ウギア(11.23%)の増加となった。

2. IMF の対モーリタニア第 4 次レビュー結果と 2, 280 万米ドルの拠出

12 月 11 日、IMF 理事会は、拡大クレジット・ファシリティに基づくモーリタニア・イスラム共和国との 3 か年契約の第四次レビューを終えた。

2017 年 12 月 6 日に、合計 1 億 1592 万 SDR(特別引出権)(約 1 億 5960 万米ドル)即ち、モーリタニア割当枠の 90%に該当する額の契約が承認されている。

今次レビューの完了により、モーリタニアは、1656 万 SDR(約 2280 万米ドル)の引出権を受けることとなり、総融資額は 8280 万 SDR(1 億 1400 万米ドル)となる。

3. 国内投資に関する仲裁・調停国際センターの活動開始

11 月 27 日、ヌアクショットのモーリタニア農商工会議所本部にて、シディアフメド商業・観光大臣の立ち会いの下、仲裁・調停国際センターの活動が正式に開始された。

同センターは、裁判紛争を専門的かつ慎重に解決し、国内投資に対する法的保護を提供するための調停や、仲裁に係る手続きのフォローアップを行うものであり、同分野におけるモーリタニア初のセンターとなる。

4. 国立海洋調査研究所によるモーリタニア水産資源の減少情報の否定

ソーシャルメディア等で拡散されているモーリタニア水産資源の減少を主張するネガティブな情報に対し、23 日付国立海洋調査研究所(IMROP)が、コミュニケを発出して同情報を否定した。

<https://www.mr.emb-japan.go.jp/files/000555579.pdf>

ルワンダ月報(2019 年 11 月)

1. 女性閣僚数の増加(7 日)

4 日の内閣改造により、閣僚 27 名中 14 名が女性となり、前回 50%であった女性閣僚の割合は 52%となった。憲法では、決定機関(decision-making organ, 注:憲法では議会及び内閣と明記)にて、女性を 30%以上含める義務を定めている。

2. カガメ大統領の G20 アフリカ投資サミットとのコンパクト(CwA)出席

18~19 日、カガメ大統領は、ベルリンで開催された G20 アフリカ投資サミットとのコンパクト(CwA)に出席し、キガリに製造工場を持つフォルクス・ワーゲン社及びシーメンス社とのパートナーシップについて紹介した。

CwA は、インフラを含むアフリカへの民間投資拡大を目的として、2017 年に G20 でドイツが議長の際に発足し、ルワンダ、ベナン、ブルキナファソ、コートジボワール、エジプト、エチオピア、ガーナ、ギニア、モロッコ、セネガル、トーゴ、チュニジアの 12 か国が加盟している。

3. 第 5 回 Made in Rwanda エキスポの開催

22 日から 2 週間、第 5 回 Made in Rwanda エキスポが開催され、繊維、家具、電子商取引関連企業や、アフリカで唯一の携帯を製造する Maraphones 社など、420 社が出展した。

4. 紅茶の輸出量増加

国家農業輸出開発庁(NAEB)によると、2018 年に、3 万トンであった紅茶の輸出量が、2019 年は 3 万 4000 トンに増加し、収入額は 8300 万米ドルから 1 億 200 万米ドルに増加する見込みである。

5. ルワンダ人女性 2 名のアフリカ・ネットプレナー賞受賞

16 日、アクラで開催されたアフリカ・ネットプレナー(インターネット上でノウハウやビジネスツールを販売する起業家)サミットで行われた、ジャック・マー基金(中国のアリババ・グループ)の受賞式で、ルワンダ人女性企業家 2 名が受賞した。

<https://www.rw.emb-japan.go.jp/files/000556657.pdf>

(ご参考)

*通貨換算 URL : <http://www.xe.com/ja/currencyconverter/>

*記載した情報は、在アフリカ諸国日本大使館 HP と AB-NET から収集したものです。

1. 「アフリカ全般：ソーシャルメディアの多様化と政治の変化」

“Analysis across Africa shows how social media is changing politics ”

The Conversation、Maggie Dwyer、 Thomas Molony、2019 年 8 月 15 日

<https://theconversation.com/analysis-across-africa-shows-how-social-media-is-changing-politics-121577>

ソーシャルメディアは、アフリカの政治を多様化している。多くのデジタル手段が利用可能となり、これを脅威と受け取る政治家もいれば、政治指導者達へのチャレンジが増加し、また政治への参加も拡大した、好ましい傾向と受け取る政治家もいる。

2. 「アフリカ全般：配電網の拡大は 2016 年以降停滞している」

“Progress in rolling out of national power grids has stalled across Africa”

The Conversation、Carolyn Logan、1 月 8 日

<https://theconversation.com/progress-in-rolling-out-of-national-power-grids-has-stalled-across-africa-128492>

2016 年以降、多くのアフリカ諸国において、配電網の拡大は停滞している。アフリカ大陸の 43%の人口が、確実な配電を受けているに過ぎない。特に、農村地帯は取り残されている。2016 年以降、アフリカ開発銀行は、the New Deal on Energy for Africa プログラムを始めているし、Power AFRICA や Sustainable ENERGY for ALL など、世界的に関心を集めたプロジェクトなどが始まっているにもかかわらず、である。

3. 「アフリカ全般：Jack Ma によれば、現在のアフリカは 20 年前の中国である」

“Jack Ma: “Today’ s Africa is the China of 20 years ago!”

The African Report、Jack Ma、1 月 10 日

<https://www.theafricareport.com/22056/jack-ma-todays-africa-is-the-china-of-20-years-ago/>

アフリカで、企業家精神を萎縮させる障害は、自分が 20 年前に中国でアリババを創設した時に戦わなければならなかった障害と同じものである。デジタル革新に抛って、アフリカを世界的なハブにすることも可能である。

デジタル革新は、素晴らしい繁栄をアフリカ大陸にもたらす可能性を秘めている。

インフラが欠けている、と言うのは問題ではない。仕事をする企業家とビジネスが必要である。大陸は、4Es が必要である。第一に起業家、第二と三は、e-government と教育である。第四は e-インフラであり、これが第一から三を支えるのである。

4. 「アフリカ全般：気温が上がれば、ツェツェバエが駆除できる可能性もある」

“What changes in temperature mean for Africa’ s tsetse fly ”

The conversation、Elisha Bayode Are、 John Hargrove、1 月 17 日

<https://theconversation.com/what-changes-in-temperature-mean-for-africas-tsetse-fly-125663>

ツェツェバエが、アフリカ眠り病を媒介する。その診断と治療は複雑であるが、ここ 50 年来、患者数は減少してきた。WHO は、今年中に絶滅すると計画している。

2018 年の患者数は 977 で、70%がコンゴ（民）である。ツェツェバエは、冷血動物であり、気温が高くなれば、死亡する。

アフリカの気温が高くなれば、より涼しい所に移動する可能性もある。ハエの出生率も低いので、駆除率を高くすれば、ツェツェバエを駆除することも可能であろう。

5. 「アフリカ全般：世界の 3 分の 2 以上の国々で広がる所得格差」

“Rising inequality affecting more than two-thirds of the globe, but it’s not inevitable “

UN report、1 月 21 日

<https://news.un.org/en/story/2020/01/1055681>

国連は、アフリカを含む世界の 3 分の 2 以上の国々で、所得格差の広がりが更なる不平等を進化させていると発表した。世界人口の 1 %の富裕層が大いなる勝利者として、1990 年から 2015 年の間に、彼らは所得シェアを伸ばしている。世界の国々や、UN のような国際機関は、不平等の緩和に向けて協力して行動すべきであると発表した。

6. 「アフリカ全般：中国の平和維持、国家建設モデルは西欧とは異なる」

“China’s approach to peace in Africa is different. How and why”

The Conversation、Steven C Y Kuo、1 月 28 日

<https://theconversation.com/chinas-approach-to-peace-in-africa-is-different-how-and-why-129467>

中国のアフリカにおける国連平和維持への参加は 1989 年より増加しており、2019 年には、70 億ドル、世界の平和維持活動予算の 15.22%であり、米国に次ぐ拠出である。

現在 14 ミッションの派遣の内、アフリカには 7 ミッションであり、予算の 2/3 を使っている。

中国の平和維持、平和構築、和平工作は、西欧とは基本的に異なる。西欧諸国は、民主主義と自由市場経済の経験から“リベラルな平和”を導く努力をする。中国モデルは、伝統的な政治哲学と、過去 40 年の国の開発経験から導き出される。

中国の平和モデルは、社会の安定と国家主導の経済発展に高い優先順位をあたえる。

7. 「アフリカ全般（在中国アフリカ人学生）：隔離の中で、食糧と日用品を探し歩いている」

“African students in China are struggling to find food and supplies in the coronavirus lockdown”

Quartz Africa、Alexandria Williams、1 月 30 日

<https://qz.com/africa/1794362/wuhan-coronavirus-lockdown-leaves-african-students-without-food/>

中国政府が武漢市を閉鎖してから7日目に、中国全土にある大学が隔離された。

6万人のアフリカ人学生が隔離されていることになる。北京大学のアフリカ人留学生は、春節を楽しむために残っていたところ、寮に實際上隔離されてしまった。

食糧も充分に無く、ましてやコロナウイルスから身を守るすべもない。スーパーにも食糧は乏しく、消毒用のアルコールもない。ジン(65-75%アルコール)の小瓶を携帯している。武漢では、5000人のアフリカ人学生が助けを求めている。85人のケニア人学生もその中に含まれている。ケニアの学生によれば、ケニアの大使館からは、自分自身で身を守り、地方行政機関に従うようにとの通知を受けた模様。

武漢からの退避については、情報もないようだ。

8. 「アフリカ西部とサヘル地域：テロリストの攻撃は前例を見ないほど激化」

“Unprecedented Terrorist Violence’ in West Africa, Sahel Region”

UN News、1月8日

<https://news.un.org/en/story/2020/01/1054981>

西アフリカとサヘル地域の国連代表は、同地域における前例を見ないほどのテロリストの活動について、安保理に報告した。テロリストの攻撃は、市民と軍に対して行われ、ブルキナファソ、マリ、ニジェールへの攻撃による人的被害は、2016年の5倍となっている。攻撃は、次第に西アフリカの沿岸国家をも対象にしている。

そのために避難民は10倍-150万人に達している。

9. 「アフリカ西部：フランスは新通貨 Eco を誘拐した」

“Why France Kidnapped West Africa’ s Eco Currency”

Premium Times、Jibrin Ibrahim、2019年12月27日

<https://opinion.premiumtimesng.com/2019/12/27/why-france-kidnapped-west-africas-eco-currency-by-jibrin-ibrahim/>

フランスは、西アフリカの最も忠実なプードル犬と言われているアラサン・ワタラ氏(コートジボワールの大統領)を使って、2020年から西アフリカ15ヶ国で使われる、共通通貨 Eco を誘拐した。ECOWAS(西アフリカ経済共同体)は、30年間共通通貨を採用し、地域の貿易と発展を目指して努力してきた。フランスは Eco を支配するだけでなく、今まで CFA に属さない7ヶ国をフランスの条件で加盟させ、CFA と同様に、フランスの植民地支配を継続する。ナイジェリアは新通貨同盟には加盟しないであろう。フランスの諸条件を受け入れる可能性はない。

(記事は新通貨 Eco への加入条件、フランスの政治的思惑等に付き詳しく説明している。)

10. 「アフリカ東部(角地域)：サウジアラビア、紅海とアデン湾を守るために角諸国に働きかけ」

“Saudi Arabia woos Horn of Africa states to protect Red Sea, Gulf of Aden”

The East African、Mawahib Abdallatif、1月11日

<https://www.theeastafrican.co.ke/news/africa/Saudi-Arabia-woos-Horn-Africa-protect-Red-Sea-Gulf-of-Aden/4552902-5414648-5vihlm/index.html>

安全保障専門家によると、サウジアラビアは、トルコとカタールと競争しながら、アフリカの角地域における影響を増加した。昨年、IGAD（政府間開発機構）の8ヶ国は紅海とアデン湾についての共通のポジションと、戦略のための調査と助言についての特別委員会を設けた。スーダン、ソマリア、ジブチは、積極的に同委員会に参加するが、エリトリアは、創立国であったが、現在参加していない。

11. 「サヘル地域：土地の劣化による農民の移住」

“Burkina Faso study shows link between land degradation and migration ”

The Conversation、Elisabeth Ilboudo-Nébié、 1月22日

<https://theconversation.com/burkina-faso-study-shows-link-between-land-degradation-and-migration-130006>

西アフリカのサヘル地域は、セネガル、モーリタニア、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、チャドに跨っている。この地域の土地の劣化によって農民は、人口の少ない、肥沃な土地を求めて、移住している。土地の劣化は、人口圧力、降雨の変化、旱魃、分散化した農業に起因している。

12. 「サヘル地域：フランスは600人の増兵を決定」

“La France va déployer 600 soldats supplémentaires au Sahel”

Le Monde/AFP、2月2日

https://www.lemonde.fr/international/article/2020/02/02/la-france-va-deployer-600-soldats-supplementaires-au-sahel_6028132_3210.html

F. Parly フランス国防大臣は、2月末までに、地上戦の戦況の好転を期して、Barkhane作戦の兵力を4500人から5100人に増強する発表した。

マリ・ブルキナファソ・ニジェールの国境地帯に重点配置され、残りはSahelG5軍の作戦に付き添う。装甲車など車両100台も送られる。

13. 「アンゴラ：現政府の汚職取り締まりは、本物か格好だけか」

“Is Angola’s Anti-Corruption Drive Real or Cosmetic?”

VOA、Anita Powell、Salem Solomon、1月11日

<https://www.voanews.com/>

アンゴラのロレンソ大統領は、2017年に就任すると反汚職運動を華々しく始めた。ターミネーターのニックネームがつけられるほどであった。取り締まりは主に、前大統領ドスサントス家族に向けられている。

ロレンソ大統領の盟友である前副大統領、現石油とガスの特別顧問の汚職事件については、進展がない。多くの汚職は、国との石油関連契約である。

大統領の汚職追求は、政治的な理由による2、3の個人であり、魔女狩りであり、ターミネーターの名にふさわしくないとの評判である。

14. 「エチオピア：海への出口を持たない国が、海軍を保持することになった」

“Ethiopia defiance minister says landlocked country now has navy”

Jane’s, Jeremy Binnie、1月20日

<https://www.janes.com/article/93801/ethiopian-defence-minister-says-landlocked-country-now-has-navy>

エチオピアの国防大臣は18日、同国は海軍を1996年以来、初めて保持することになったと発表した。海軍基地は、ジブチに置かれる。紅海とアデン湾の海域の重要性は言を俟たず、エチオピアは同地域における影響力を増加するのが目的である、

フランスの援助があるが、フランスは、エチオピアの経済開放、特にテレコミュニケーション、海運、エネルギー分野への進出を期待しているものと思われる。

15. 「ガーナ：資源産出コミュニティは、取得すべき収入を満額受け取っていない」

“Ghana’s mining communities are still not getting their just dues”

The Conversation、Päivi Lujala & John Narh、1月9日

<https://theconversation.com/ghanas-mining-communities-are-still-not-getting-their-just-dues-128638>

ガーナは、鉱物資源の宝庫であるが、鉱山地域のコミュニティは、豊かな産業の恩恵にあずかっておらず、貧しい。鉱山の収入の一部はコミュニティに還元されるべき、との法律があるにもかかわらず、である。一つの理由は地元当局が支払われた資源ロイヤリティを一部鉱山に還元しているからである。

16. 「ガンビア：ミャンマーのジェノサイド提訴は世界を驚かす」

“Why the Gambia’s plea for the Rohingya matters for international justice”

The Conversation、Kerstin Carlson, Line Engbo Gissel、1月15日

<https://theconversation.com/why-the-gambias-plea-for-the-rohingya-matters-for-international-justice-129365>

ガンビアは、イスラム協力機構を代表して、ミャンマーのロヒンギャ大量虐殺を国際司法裁判所（ICJ）に提訴、23日の暫定裁定では、あらゆる手段を用いて、イスラム系少数民族ロヒンギャに対するジェノサイド（集団虐殺）を阻止するよう命じた。

アフリカの小国、ガンビアが、ミャンマーを訴えたことに国際的には驚きがあった。

ガンビアは、アフリカあるいはイスラム世界を代表したのではなく humanity を代表したものである。ガンビアの Tambadou 法務大臣は、ルワンダ国際戦犯法廷の検事として13年間務めた経験を持つ。ガンビアは現在、イスラム協力機構の議長である。

17. 「ケニア：野生動物保護には、現在の保護区域を超える政策が必要」

“Kenyan wildlife policies must extend beyond protected areas”

The Conversation、Peter Tyrrell、12月19日

<https://theconversation.com/kenyan-wildlife-policies-must-extend-beyond-protected-areas-127821>

ケニアは、大きな哺乳類が生存する自然環境の保護で有名であるが、広く知られていない哺乳類、鳥、両生類に対する保護については、現在の保護区域での政策は不十分である。ケニアでのこれらの動物の保護には、より革新的な政策と保護区域の拡大等が必要である。

18. 「ケニア：イナゴの侵入と効果的な対策に苦心」

“Lessons on how to effectively tackle insect invasions ”

The Conversation、Esther Ndumi Ngumb、1月17日

<https://theconversation.com/lessons-on-how-to-effectively-tackle-insect-invasions-129834>

ケニアは現在、イナゴの大群が、北部から始まり、他の地域にも広がり始めている。政府は、イナゴによる農業生産への損害が、推定で通常収穫の70%に達するのではないかと発表した。

殺虫剤を使えば、短期的には効果的であるが、イナゴはすぐに耐性を持ち、効果は限定的である。また殺虫剤は、環境にも悪く、農民と消費者への健康上の問題もある。

19. 「コンゴ(民)：多くの刑務所に医薬品と食糧が配布されていない」

“Eleven deaths reported in Kinshasa jail since start of 2020”

Aljazeera、1月8日

<https://www.aljazeera.com/news/2020/01/eleven-deaths-reported-kinshasa-jail-start-2020-200107145257368.html>

コンゴ(民)で、今年の始めから既に、11人の囚人が、薬と食糧不足のために亡くなった。マカラ刑務所の職員が、AFPに語ったところによれば、昨年10月から、薬と食糧のための資金が配分されていない。

マカラ刑務所は、設立当初、最大1500名収容可能な刑務所として、首都に建てられたが、現在9,000名の囚人を収容している。

コンゴ(民)のほとんどの刑務所は薬と食糧は配布されていない。

20. 「スーダン：旧政権の保安諜報機関はディープステート化している」

“Sudan’s deep state still poses a threat to the democratic process”

The Conversation、Andrew Edward Tchier, Jihad Salih Mashamoun、1月23日

<https://theconversation.com/sudans-deep-state-still-poses-a-threat-to-the-democratic-process-130243>

スーダンで暫定政府が成立し、国民は民主的な国家が成立すると楽観的である。

しかし、旧保安諜報機関が未だ影響力をもっており、deep state化（国家に従わない官僚組織）しており、スーダンは民主主義国家の成立のために、この影響力を壊滅しなければならない。

21. 「ナイジェリア：選挙における WhatsApp アプリの利用と民主主義」

“WhatsApp played a big role in the Nigerian election. Not all of it was bad”

The Conversation, Nic Cheeseman, 2019 年 7 月 29 日

<https://theconversation.com/whatsapp-played-a-big-role-in-the-nigerian-election-not-all-of-it-was-bad-121064>

最近のナイジェリの選挙では、WhatsApp 社（スマートフォン向けに無料インスタントメッセージの送信が可能なアプリを提供するアメリカ企業）のアプリを利用した様々な情報発信によって、選挙民が、益々巧妙な手口で迷わされた。

しかし、結果的には民主主義を強化することになったと考えられる。

22. 「ナイジェリア：Eco 通貨の早急な変更には反対である」

“Nigeria Moves Against Hasty Adoption of 'Eco', Says It's Studying the Situation”

This Day, Obinna Chima & Ndubuisi Francis, 12 月 31 日

<https://www.thisdaylive.com/index.php/2019/12/31/nigeria-moves-against-hasty-adoption-of-eco-says-its-studying-the-situation/>

ナイジェリアは、Eco 通貨の早急な採択には反対である。その理由は、1) 実質 CFA の名称の Eco への変更に過ぎない。2) フランスによる西アフリカをその影響下に置く提案に過ぎない。3) 多くの条件をつけ、弾力的な通貨の交換を難しくする、である。

23. 「ブルキナファソ：市民ボランティアも反乱軍と戦う」

“Burkina Faso to recruit civilians in fight against armed groups”

Al Jazeera, 1 月 23 日

<https://www.aljazeera.com/news/2020/01/burkina-faso-recruit-civilians-fight-armed-groups-200123153206911.html>

ブルキナファソは、新たな法律を可決して、軍は市民のボランティアを補助として募ることが可能となった。ボランティアには、2 週間の訓練の後、小火器と通信機材が供与され、村が反乱軍に襲われたとき、軍隊の到着まで村を守備する。

ブルキナファソは、2015 年以来反乱軍が活動し、4000 人以上の死者をだしている。フランス軍 4500 人を含めた多国籍軍が、サヘル地域の守備についている。

24. 「南アフリカ：2020 年経済成長予測は低レベルで変化なし」

“Economic Growth Forecasts : The 2020 outlook: a little better with lots of the same”

Business Day, Linda Ensor and CAROL PATON, 12 月 31 日

<https://www.businesslive.co.za/bd/national/2019-12-31-the-2020-outlook-a-little-better-with-lots-of-the-same/>

南アフリカの 2020 年の経済予測に関して、南ア準備銀行による 2019 年の 1.4% は、未だ底では無い。IMF 予測では、不活発な経済によって国民はより貧困となろう、一人当たり所得は逡減、としている。世銀は、2020 年の成長は 1%。経済改革の早急な実施が必要。IIF（国際金融協会）は、2020 年の成長は 1%。信用貸付の格付は 3 月か 4 月になろう。Moody's は、長期外資と現地通貨の信用格付けは、Baa 3、3 月に格下げとなろう、となっている。

25. 「南アフリカ：HIV の母子感染率ゼロを目指す政府」

“South Africa steps up its game to end mother-to-child transmission of HIV”

The Conversation、Ute Feucht & Jeannette Wessels、1月7日

<https://theconversation.com/south-africa-steps-up-its-game-to-end-mother-to-child-transmission-of-hiv-128439>

南アフリカにおける HIV の母子感染は、40%位であったが、現在は1%であり、世界の最先端にある。政府は、これをゼロにする計画である。

そのためには母親の血流にあるウイルスレベルを、検出限界以下にしなければならない。特に出産後の母乳を通じての感染に注意が必要である。

26. 「南アフリカ：グリーン燃料資源を保持している。エネルギー改革を直ちに」

“South Africa has huge ‘green fuels’ potential. But it needs to act now ”

The Conversation、David Richard Walwyn & Rod Crompton、1月10日

<https://theconversation.com/south-africa-has-huge-green-fuels-potential-but-it-needs-to-act-now-129009>

南アフリカの石炭とプラチナの輸出は、将来減少することになる。風力、太陽光、水素等のグリーン資源は豊富である。今こそ真剣に、エネルギーの依存を石炭からグリーン資源へ変更すべきである。現在、世界の炭酸ガスの14%を排出し、人口一人当たりで、10番目の排出国である。

南アフリカは地球温暖化への貢献国から変わる事が出来る。

27. 「南スーダン：移行政府の成立には、政治的な問題もある」

“South Sudan Transitional Govt Formation Vulnerable to Politics”

The East African、Fred Oluoch、1月11日

<https://www.theeastafrican.co.ke/news/ea/South-Sudan-transitional-government-formation-vulnerable-politic/4552908-5414642-r66qb3z/index.html>

南スーダンの移行政府の成立は、昨年11月に100日延期され、2月22日となっている。これまでの経過を反対派は、いくつかの積極的な進展は認めるが、平和協定に違反しているとの指摘もある。特に、大統領令による最近の30人の政治犯の解放は、平和協定違反、と指摘している。平和協定の順守と、移行政府の成立については、政治的な複雑な動きがある。(記事に詳細な報告がある)

28. 「リビア：周辺国は外国の介入を拒否」

“Les voisins de la Libye rejettent toute ingérence étrangère”

Le monde/AFP、1月24日

https://www.lemonde.fr/afrique/article/2020/01/24/les-voisins-de-la-libye-rejettent-toute-ingerence-etrangere_6027067_3212.html

1月23日、アルジェに、リビア周辺のチュニジア、エジプト、チャド、マリの外相が集まり、H. マース独外相から1月19日のリビア情勢に関する首脳会談の結果を聞き、リビア問題を協議した。会合では武器禁輸の遵守、外国の干渉拒否、UN と AU の下での

紛争当事者の包括的解決を目指した対話促進が呼びかけた。

リビアはカダフィ体制崩壊後、2015 年から Sarraj トリポリ政府軍と東部の K. Haftar 将軍勢力との間で内戦状態にあるが、昨 2019 年 4 月からは、K. Haftar 軍がトリポリ占領を目指して、攻撃を強めている。紛争の 2 人の当事者は欠席している。

ベルリンに招かれた A. Tebboune アルジェリア大統領は、敵対当事者の対話の場を提供する用意があるとしている。会合後独外相はチュニスの立ち寄り、また、R. エルドアン トルコ大統領は、アルジェに立ち寄っている。

29. 「リビア：国連はリビアに武器、外国兵力の流入が続いていることを懸念」

“L’ ONU s’ inquiète de l’ afflux d’ armes et de combattants étrangers en Libye”

Le Monde、1 月 31 日

https://www.lemonde.fr/afrique/article/2020/01/31/l-onu-s-inquiete-de-l-afflux-d-armes-et-de-combattants-etranagers-en-libye_6027925_3212.html

1 月 30 日、G. Salame UN リビア特使は、1 月 19 日のベルリン会議後も恥じない国々により、会合の約束を反故にし、最新兵器の供給、戦闘員および軍事顧問の送り込みが続いていると非難し、国連決議の早期採択を訴えた。

Salame 特使によれば、EAU、エジプト、ロシアに支援された K. Haftar 軍は、Benina 空港と Al Khadin 空軍基地に、日に数回軍用貨物便で武器、装備、外国人を含む歩兵を受け入れ、Sarraj トリポリ政府軍は、数千人の外国人戦闘員の受け入れと展開、軍艦と貨物船が、トリポリ沖に来ている。

仏はトルコがシリア人傭兵と装甲車をトリポリに搬入をしているのを確認したとしている。国連安保理の決議は早くて 2 月初めといわれているが、米露は後ろ向きである。

他方、1 月 30 日アフリカ諸国はブラザビルで会合し、リビアの紛争解決を支持したが、問題が、西側とロシア、トルコで話し合われ、アフリカ諸国は蚊帳の外に置かれていることに不満が聞かれた。

30. 「リビア：国連は継続的停戦の話し合いの見通しに敬意」

“Libye : l’ ONU salue des négociations autour d’ un « cessez-le-feu durable »”

Le Monde/AFP/Reuter、2 月 4 日

https://www.lemonde.fr/international/article/2020/02/04/libye-l-onu-salue-des-negociations-autour-d-un-cessez-le-feu-durable_6028373_3210.html

1 月 04 日、G. Salame UN リビア特使は、リビアの戦闘当事者間で「休戦」から「継続的な停戦」を目指し、協議することに原則合意を見たと発表した。

K. Haftar 軍 (ANL) と、トリポリの GAN の双方からそれぞれ 5 人の軍人がジュネーブに来たが、直接は会うまでに至っていない。他方武器禁輸は、双方が破り続けている。

(ご参考)

*通貨換算 URL : <http://www.xe.com/ja/currencyconverter/>

お役立ち情報の紹介

顧問 堀内 伸介

1. 「腐敗認識指数 CPI」

“CPI 2019: Global Highlights : How corruption impacts political integrity”

Transparency International、1月23日

https://www.transparency.org/news/feature/cpi_2019_global_highlights

- ・ Corruption Perceptions Index (CPI) は、各国の公的部門の汚職、腐敗程度を専門家とビジネスマンによって、指数化したもので 100 点（非常に清潔）から、0 点（非常に腐敗）となっている。今年は 180 ヶ国について指数化されている。2/3 以上の国が、50 点以下、平均 43 点である。
- ・ ニュージーランドが、最も汚れていない国とされ、87 点である。北欧諸国が次であり、シンガポール、ドイツ、アイスランドと続いている。ソマリアが 9 点で最低であり、スーダン、南スーダン、シリア、イエマン、ベネズエラ、アフガニスタン、北朝鮮と続く。昨年から改善した国として、アンゴラは 7 点上がって 26 点で、146 位となった。盗まれた 50 億ドルを取り戻したからである。サウジアラビアは、人権問題を抱えているが、4 点上がって 53 点で 51 位となった。米国は 2 点を足して、69 点で 23 位となっている。
- ・ EU 諸国が、平均 66 で最高である。サブサハラ・アフリカは、地域として最低で平均 32 点である。汚職取締に対する厳しい動きがないとされている。セーシェルが 66 点で最高であり、ボツワナが 61 点で続いている、カーボベルデ 58 点、ルワンダ 53 点、モーリシャス 52 点である。低い方から、ソマリア 9 点、南スーダン 12 点、スーダン 16 点、赤道ギニア 16 点となっている。
- ・ 調査によれば、選挙時に資金の流れが自由な国、意思決定過程で広く協議が行われる国よりも、エリートが恵まれている国に汚職が多いとのことである。

2. 「2020 年世界経済予測：低成長と政策へのチャレンジ」

“January 2020 Global Economic Prospects: Slow growth, policy challenges”

World Bank、1月8日

<https://www.worldbank.org/en/news/feature/2020/01/08/january-2020-global-economic-prospects-slow-growth-policy-challenges>

（本文は上記サイトを開いてから、ダウンロードして下さい。全文 334 ページ）

- ・ 世界の 2020 年の経済成長は 2.5% と予測されている。投資と貿易は 2019 年の弱い傾向から、ゆっくりと回復してくると予想されるが下降傾向が全く無くなったわけではない。
- ・ 先進国全体としては、2020 年には 1.4% と予測される。製造業の成長に弱点があると予測される。
- ・ 新興国と途上国の成長は、遅い状態が継続することであろう。
政策作成者は、この機会を利用して、貧困の削減のために裾野の広い成長を目指した構造改革を実行すべきであろう。

- ・サブサハラ・アフリカ地域の成長は、2020年には2.9%が期待できるが、幾つかの大経済国の投資家の信頼回復、エネルギー供給の隘路の解決、石油輸出国の生産の増加、農産物の輸出増加の継続などが条件である。
- ・南アフリカの成長は、0.9%と予想されるが、前提は政権の改革が早急に進むこと、政策の不安定さの解消、投資が次第に回復することである。
- ・ナイジェリアの成長は2.1%が期待されるが、マクロ経済の動きは、信頼を勝ち取るものとは言えない。
- ・アンゴラは1.5%の成長が期待できるが、現行の経済改革が、マクロ経済の安定に寄すること、ビジネス環境の改善、民間投資の増加が前提である。
- ・West African Economic and Monetary Unionの経済成長は、6.4%を維持することであろう。ケニアの成長率は6%にじわじわと上がるであろう。農産物の輸出、公共インフラの投資、民間部門の活発な経済、あるいは、生産性と輸出部門の競争を挙げている、マダガスカル、ルワンダ、ウガンダ、ブルキナファソ、コートジボワール等には、経済成長が期待できる。
- ・危険要素：中国、EU圏内、米国で、経済の予想以上の下降があれば、サブサハラ・アフリカ地域の経済は、大きな影響を受けるであろう。また、政府の債務の増加は、利払いの増加、財政の圧迫、債務の維持に問題を投げかけている。気候変動は、農業に大きなマイナスの影響を与えている。

(ご参考)

*通貨換算 URL : <http://www.xe.com/ja/currencyconverter/>

遊びを通した学び
－子どもが自発的に楽しく学ぶために－

隊次：2018 年度 1 次隊

派遣国：セネガル

派遣先：ファティック県視学官事務所

職種：幼児教育

氏名：見崎祥恵

はじめに

初めまして、2018 年度 1 次隊の見崎祥恵(みさきさちえ)と申します。私は日本の公立保育園で 7 年間勤務した後、2018 年 7 月より幼児教育隊員としてセネガルに派遣されました。現在は首都から東に車で 3 時間程離れたファティック市内(人口約 2.5 万人)にある 2 か所の幼稚園で活動しています。まずは、セネガルの概要について説明したいと思います。

セネガルという国名は、2018 年のワールドカップで日本と対戦したことで、記憶に残っている方も多いのではないのでしょうか。ちょうど私がセネガルに出発する 1 週間ほど前に試合があり、セネガルの選手達の姿を見ながら、これから行く土地への想像を膨らませていたのを覚えています。

到着した時は、「セネガルと日本はお互いよくやったよな！(2 対 2 の引き分けでした)」とよく声をかけられました。



セネガルはアフリカ大陸の西端に位置し、大西洋岸のダカールを首都としています。

国土面積は約 19 万 7 千平方キロメートルと、日本の半分程度の大きさです。

人口は約 1,585 万人で、ウォロフ族、プル族、セレール族など多数の民族で構成されています。

ウォロフ語をはじめとする各民族の言語が使用されていますが、フランス語が公用語として定められており、小学校からフランス語で授業が行われます。

結 婚 式 の 様 子

国民の 95%がイスラム教であり、宗教と国民の生活が密接に結びついています。キリスト教や伝統宗教など、他の宗教の人たちともうまく共存しているところが特徴です。

1. セネガルの幼児教育 ―遊びのない幼稚園―

セネガルの幼児教育の歴史はまだ浅く、2000 年に入って、ようやく政府が本格的に幼児教育の向上に取り組み始めました。

現在、3 年制の公立幼稚園、私立幼稚園、子どもセンターなどで構成されていますが、2015 年の時点で就学率は 14.9%と、まだまだ高くはありません。

セネガルでは幼稚園教諭になるための専門的な学校はなく、教員養成校で小学校教育と幼児教育について 9 ヶ月学んだあと、すぐに小学校または幼稚園に配属されます。

そのため、幼児期の子どもの発達についての知識が不十分なまま働いている先生達も少なくありません。また、私立では免許がないまま働いている先生もいます。

幼稚園の先生達は「教え込む」という意識が強く、子ども達は長時間座って話を聞いたり、黒板とノートを使って学ぶといった活動が中心です。しかし、活動内容が子どもに合っていないため、なかなか学びにつながっていないのが現状です。

幼児期の子どもにとって最も大切なことは遊びの中で主体的に学ぶ、ということ。

「セネガルの先生達に遊びを通して学びの大切さを伝える」、これを活動の目的として、セネガルの幼稚園に合った遊びを紹介して、先生と実践しています。

私の主な活動内容は、算数の基礎になる遊び（詳細は次葉の第 2 項ご参照）と、製作活動を中心として、その他に運動遊びや歌、物語などの活動を取り入れています。

最初の 1 年目は、まずセネガルの幼児教育を理解することに必死で、幼稚園の活動内容を見ながら、その中でセネガルの指導要領に合った活動を紹介してきました。



幼稚園の年度末のお祭り

セネガルではセレモニーのために
同じ布を買って、お揃いの民族衣装を
作ることが多いです

先生達が興味をもって来て参加してくれた活動があれば、セネガルの先生に理解してもらって実践するのは難しく、うまくいかなかった活動も多くあります。

1 年を通して幼稚園の流れを知った 2 年目は、「活動をつなげる、広める」ことを目的として活動しています。

私が帰国したあとも、先生達に活動を続けてもらいたい、これが、私が活動する中で最も大切にしていることです。

今回、その目的の一環として研修会を開催したので、その様子をお伝えしたいと思います。

2. 研修会 ―遊びを通して算数を学ぼう―

昨年、他の幼児教育ボランティアと一緒に、遊びを通して学ぶ算数の基礎についての本を作りました。この本には、子どもの発達や、算数の基礎となる、形、数、対応などを学ぶための遊びの指導方法が記載されています。

そして、この本を、セネガルの先生達に紹介するために、11月、12月に2か所で研修会を開催しました。今回の研修会のテーマは「形を学ぶための遊び」です。

セネガルは幼稚園で丸、三角、四角を学びますが、先生が「三角は頂点が3つ、四角は2組の平行線でできている」と説明して、子どもがひたすら復唱するなど、子ども達にとって理解しづらい活動内容になっています。

もっと楽しく、遊びの中で形を学べるようにしよう！と先生達に4つの活動を紹介しました。活動の紹介中は、先生達に生徒役になってもらい、実際に活動内容を体験することで、指導方法を覚えてもらえるようにしました。大人も子どもも、話を聞くだけではなく、自ら経験することで知識がより身についていきます。

部屋の中にたくさんの形を貼って、子ども達が先生に言われた形を見つけて触る遊びや、外に大きな形を書いて、鬼ごっこの要領で先生に捕まえられないように形の中に入る遊び、切り紙をやりました。

活動を紹介する中で、特に意識したことは、「1つの活動の中にたくさんの学びがある」ということです。例えば、形の鬼ごっこでは、身体を動かしながら形を学ぶことができます。

また、切り紙は、折ったり切ったりする製作の中で、形や対称を学ぶことができます。

このように、遊びの中にはたくさんの学びが含まれており、様々な遊びを通して主体的に学ぶことで、子どもの理解は深まっていきます。セネガルの幼稚園では、30分間三角形の特徴を黒板で繰り返し説明し続ける、といったような、子どもにとって集中しづらい活動内容が多いのですが、このように運動や製作など様々な活動と組み合わせることによって、効率よく、楽しく学ぶことができるのです。



タングラムの教材作成をする様子

研修の後半では、複数の三角形を使って、魚や家など色々な形を作る、幼児向けのタングラムの教材製作を行いました。

セネガルの幼稚園には日本のようにおもちゃがあるわけではなく、教材づくりを苦手としている先生達が多くいます。

一緒に教材を作って、実践することで、作り方や活用の仕方を知り、今後も先生達自身で活動が続けていってほしいと願っています。



研 修 会 に て

研修の終わりにとったアンケートでは、「遊びは興味深い」「自分たちでも実践していきたい」などの意見がありました。

この研修は、資料のフランス語を添削して、一緒に発表してくれた幼稚園の先生方、事前の手配や当日の進行などをサポートしてくれた配属先や教育省の方達の協力があったからこそ、成し遂げることができました。このように、現地の人たちと一緒に研修会を開催することができたのは、1年5か月通して地道に

彼らとの関係を築いてきたからこそ、できたことだと思います。日本でも海外でも、人と人とのつながりがあってこそ、いい活動ができるのだと改めて実感しました。

今後も、引き続きこのような研修会を続けていきたいと思っています。

3. コーナー保育 —自分で遊んで自分で学ぼう—

もう1つ、私が取り組んでいる活動があります。それは、「コーナー保育を取り入れる」ことです。コーナー保育という言葉は、幼児教育の経験がない方には馴染みがないかもしれませんが、のちほど説明させていただきます。

先ほども述べたように、セネガルの幼稚園にはおもちゃや教具がほとんどありません。

子どもの人数が多く、教具が少ないため、数人の子どもが先生と1つの活動している間、他の子ども達が何もせずにござの上で座って待つ、という時間がとても長いです。子どもにとって、何もせず座って待つことは難しく、静かにできないため叱られる、集中力が失われる、などといった問題があります。しかし、そこで子どもをいくつかのグループに分けて、1つのグループが先生と活動している間、他のグループは、自由画やブロックなどをしながら自分たちで遊ぶことができれば、時間も無駄にせず、子ども達は自分自身で遊びながら学んでいくことができるのです。これが、コーナー保育です。

子どもの待ち時間が気になり、コーナー保育を取り入れてみたいと思っていた私は、昨年、自由画やパズルなど様々な遊びを取り入れてみました。そして、昨夏のバカンス中に、他の隊員に教わりながら木を切ってブロックや積み木を作りました。

幼稚園に実際にもっていくと、初めて見る積み木に子ども達は興味津々。初めこそ、遊び方がわからず、集めて満足するだけの子どもも多くいましたが、次第に並べたり、積み上げたりする姿が見られました。実はこの「自分のもの、とブロックを集める」→「横に並べる」→「縦に積み上げる」といった流れは、日本の保育園でもよく見られる光景なのです。

そして、1人で遊んでいた子ども達が、次第に友達と協力して作品を作り出した時に、「日本でもセネガルでも、子どもはみんな同じように成長していくのだな。」と、とても感動しました。



初めて積み木で遊ぶ子ども達

友達と協力して何かをする、という機会があまりないセネガルの幼稚園で、このような姿を見ることができた事はとても嬉しかったです。

また、私がいらない時に積み木を使って実践してくれる先生の姿も見られました。

このコーナー保育は、セネガルの先生達にとっても新しいものであり、また、幼稚園では活動(遊び)の最中に話してはいけない、など日本と違った考えがあることから、軌道に乗るまでは、課題が山積みですが、これからも試行錯誤しながら、日本

のコーナー保育ではなく、セネガルのコーナー保育と一緒に作り上げていきたいと思っています。

最後に

以上が、私の1年5か月の活動の一部です。活動中、悩むこともたくさんありますが、そこで助けてくれるのは、やはり現地の人であり、子ども達です。子ども達が活動で目を輝かせてくれる瞬間、現地の先生達が私の活動を実践しているのを見る瞬間は私にとって大きな喜びであり、ここに来てよかったと思う瞬間です。そして、私自身も、セネガルに来てから幼児教育を学び直したり、幼稚園でつまづいた課題が、小学校以降も続いていくことを目の当たりにして、幼児教育の大切さを改めて感じました。今までとは違った観点で幼児教育を見ることができ、新たに気付いたこと、実践してみたいことがたくさんあります。

例えば、セネガルで実践した算数の基礎につながる遊びを日本でも実践するなど、小学校以降も子ども達が主体的に学んでいけるような活動の大切さを現場で伝えたいと考えています。そして、子ども達にセネガルの文化について伝えることが今からとても楽しみです。

セネガルは日本からは遠く、「アフリカ」という名前は知っていても、個々の国についてイメージしづらい子がほとんどです。セネガルの生活、食事、音楽、遊び…日本と違う部分もあり、同じ部分もある、大切なことはお互いを知る事です。知らない文化に興味をもって体験することで、違うことが当たり前と感じ、お互いの違いを認め合って成長していけるような保育をしたいと考えています。

この寄稿文を書いている今も、セネガルや日本の保育現場でやりたいことがたくさん浮かんできます。それは、ここで出会った人々のおかげであり、良いことも悪いことも含めた全ての経験があるからだと改めて感じました。

大好きなセネガルで、大好きな人達と生活して、活動していけることに感謝しながら、残りの日々も精一杯頑張っていきたいと思います。(了)

インタビュー 中込 孝規 「世界とつながるダンス教室」代表 に聞く
一人とつながり世界とつながる素晴らしさを感じてほしい



1988 年 埼玉県生まれ。
早稲田大学商学部卒。ストリートダンス歴 15 年。
大学在学中にオールジャパン学生ダンス選手権大会で優勝。
2010 年大学卒業後教育系企業ベネッセに入社。
4 年間勤務した後、「ダンスで世界一周」の夢を叶えるために退職。フィリピンに語学留学し、1 年半かけて 18 か国 57 都市をまわり、1 万人以上の子どもたちにダンスを教えながら世界一周。

「NHK 人生デザイン U-29」「日テレ NEWS24」出演や読売新聞連載など、幅広くメディアからも注目を集めている。

2018 年、TEDxKyoto にスピーカーとして登壇。

2019 年 1 月「世界経済フォーラム年次総会・ダボス会議」に日本人若手リーダーとして参加。

7 月グローバル・シェイパーズ・コミュニティ 東京ハブ キュレーター。

8 月平塚ロータリークラブ・文化大賞文化賞受賞。

11 月日本メンズファッション協会「ベストデビュタント賞」受賞。

東京と神奈川でダンス教室を運営しながら、活動の場を日本各地、アフリカに広げている。

—公式ウェブサイト— <http://gome-takanori.com/>

——人との比較で自信がもてなかった 10 代

中込：今でこそ大勢の人の前で自分の想いを語れるようになりましたが、もともと自分に自信がなくコンプレックスのかたまりでした。中学受験で第一志望校の合格が叶わず、何事も順位を気にしてしまう。一方でほめられたい、認められたいとの思いからホラを吹き、友人から疎まれる。心の壁をつくり孤独でした。

そんな時に興味を持てたのがストリートダンスです。ダンススクールに通い、大学ではダンスサークルに入りました。早稲田の公認サークル、ワセブレ（Waseda University Breakerz）です。高校時代は対人恐怖症気味で、本音で付き合える友達はいませんでした。ここでは一緒にディズニーシーのオーディションを受けてショーに出たり、オールジャパン学生ダンス選手権大会チームの部で優勝、先輩に誘われてキッズダンス教室で子どもに教えたり、自分を取り戻せました。それでもワセブレには世界一に輝く先輩や、周りにすごい人が多く、「自分なんて」との気持ちを拭い去ることはできませんでした。

——企業に就職、マーケティング部門で働き、週末はビジネススクールに通う

中込：将来は起業したいと思い大学は商学部を選びました。自営業にあこがれ、自分で夢を語って働くのはかっこいい。マーケティングに強く、よく生きるという理念に共感し、ベネッセに就職しました。

希望通りマーケティングの部署で働き、DMをつくったり Web のコンテンツを考えたり、週末はビジネススクールで勉強し充実していましたが、心の中のもやもや、ロールモデルがみつからず、3・5 年で辞めて自分で何かやるぞという意気込みで入社したのに理想の自分に近づけているのだろうか？という気持ちが強くなりました。

——教育関係者の交流会に参加したことで目標が定まる

中込：就職して 3 年目の終わり、教育関係の交流会に参加してみるとそこには、学校の先生、PTA の方、教員志望の学生、教育関係の企業の方がおられ、とても明るい雰囲気でした。懇親会で私は「大学時代にダンスを教えていた子どもたちから、またダンスを教えてほしいと言われているけど、本業で忙しいから断っている。」と言ったところ「なんでやらないの？やらない理由はないでしょう。場所は公民館でも借りればいいし、アレンジはその人達に手伝ってもらえばいいじゃない。」と背中をぐいぐい押されました。

正直言うと、忙しいからというのは言い訳で、自分でやるのが怖かった。自分で人を集めて場所を借りてレッスンするというのは、アルバイトで入るのとは違ってハードルが高すぎる、と臆病になっていました。背中を押してもらったことで、勇気を奮って週末午後に自主開催したところ 20 人くらいの子どもが集まってくれて、子どもたちも保護者の方も喜んでくれ、何より一緒に踊るのが楽しい、心震える経験でした。大げさかもしれませんが、今まで自信がなく、人の後ろに隠れてリーダーシップをとりたくてもとれなかった私が 25 歳にして初めてやりたいことを自分で企画して実行できた。やりたいことを先延ばしにするのはやめようと決心しました。

私は学生時代から自分の夢「起業する」「世界一周する」を紙に書いて壁に貼っていました。「ダンス教えながら世界一周する」心は決まりました。勤めていた会社からは慰留されましたが、5・10 年後のロールモデルはみつきりません。3 月に退職して 4 月 2 週目に出発。まずフィリピンのセブ島で 2 か月英語を勉強しました。

——ダンスという武器をもって怖いと思っていたアフリカに足を踏み入れる

中込：フィリピンからインドネシアに行き、胃腸の弱い私はずっとお腹を壊していましたが、各地でいろんな子どもたちと出会い、いろんな縁でつながって楽しい思い出を積み重ねて行きました。

世界一周が目的だったのでアフリカにも行くつもりでしたが、当時の私にはアフリカ＝怖いところ、動物がいて、マサイ族と一緒にジャンプするぞというイメージしかありません

でした。青年海外協力隊でパソコン教師をしている友人を頼って、まずジンバブエから入りました。そこでダンスを通して子どもたちの笑顔に出会い、大使館の方から「ハイファという南部アフリカでトップクラスの国際芸術祭があるから、ジンバブエの子供たちに教えて一緒に参加すれば」と言われ、2 か月後にまたもどることになりました。その間、1 か月間バスで



ハラレ国際芸術祭（ハイファ）に参加

マラウイを一周、マラウイでは各村にいる協力隊員 60 人以上に会って一緒に食事したり踊ったり、そのあとタンザニア、ザンビア、ルワンダとアフリカだけで 6 か月滞在することになるのです。そのくらいアフリカにどっぷりはまってしまって、アフリカ=怖い、自然、動物、というイメージが根底から覆されました。今まで私が接してきた文化とは全く違って、違うことが面白く、同時に人として同じ部分もたくさんあって今までの価値観、周りと比較しての評価が意味をもたないことにも気づきました。マラウイではお腹を壊して 8 時間バスに揺られて、着いた村で大歓迎されました。こちらがやりたくてやっていることで感謝されて、心が通いあいました。ルワンダでは現地の日本人が経営しているバーに 1 か月滞在、昼間は小学校にダンスを教えに行き、バンドと一緒に練習、週末は彼らとパフォーマンス。滞在最後の日にサプライズ・パーティを開いてくれて、「家族だと思っているからいつでも戻っておいで」と言われたことが今につながっているのかなと思います。

——子供たちに世界とつながる経験をしてほしい

中込：多くの日本人と同じように、私もアフリカ=貧困、紛争とステレオタイプに怖いところと思っていました。実際に行ってみて、ものごとにはいろんな側面があって今まで私が見てきたのはほんの一部だけだった、世の中で言われていることも自分の目で確かめるまで正しいかどうかはわからない、と気づきました。背中を押してくれる人のおかげで自信がもて、世界一周して視野が広がり、違いを尊重することで、個人の価値に気づき、生きるのが



楽になりました。日本の子どもたちにダンスを通して、自信をつけたい、勇気づけたい、そしてルワンダの子どもたちとつなぎ、違いを尊重するという経験をさせたいと思いネットを通して一緒に踊ることを考えました。

マラウイで子どもたちと



昨年1月「世界経済フォーラム年次総会・ダボス会議」に日本人若手リーダーとして参加する機会をいただきました。ビデオ選考を経て9000人中40名がダボス会議に呼ばれました。ディスカッションの中で「どうして日本とアフリカの子どもたちをつなごうと思ったのか」文化をつなぐ意味が話題になりました。私の考えは「違いを認め合うことで、自信が持てる、相手を尊重できる。自分の原体験があったのでそれを子

ダボス会議にて

どもたちに体験してほしい。」準備期間中からすごく緊張しましたが、充実感で一杯でした。英語は今でも得意ではありませんが、言いたいこと、考えてきたことはあります。流暢でなくても、しっかり語ることによって相手から尊重され理解されるという経験もできました。

——サステナブルの意味を考えると

中込：お金を得て、ビジネスとしてまわすことだけがサステナブルとは考えていません。クラウドファンディングをした一番の目的は、一緒にやれる仲間を募ることでした。出会った子どもたちがフラットな関係でお互い学びあってほしいと考えています。

世界一周の旅の途中、タンザニアで憧れの金城拓真さんに会えました。驚くほど腰の低い方で、「やりたいことを好きな人と、気の合う人とやればいい、大きいことじゃなくても、結果的に大きくなればそれでいいし、事業の大小は関係ない」と感じました。目からうろこ



2019年 ダボス会議に参加

でした。

ダンスを通して世界中に友人ができ、渋谷と平塚でも多くの人とつながっています。そのメンバーと色々なイベントを立ち上げるのがとても楽しい。皆でダンスの靴を入れる袋をアフリカの布で作ったり、平塚のレザー職人さんに習って、ユニフォームの蝶ネクタイをおそろいでつくったり。平塚には尊敬できる友人がたくさんいて、平塚漁港の漁師さんや、農家の人と一緒に収穫したものをレストランへもって行ってみんなで料理して食べる。渋谷のスタジオに通われている医師、DJ と一緒に、録音した心音を使ってダンスをする。尊敬する仲間と好きなことに熱中する時間を共有し、自分のペースで生きている、そういう生き方もいいなと思います。

SNS など WEB を通じて自分のメッセージを世界中に届けること、実際にリアルな場で世界中の人と会うこと、どちらも大切にしています。いろんな人と交流し、世界を広げたいと考えています。



平塚で主催しているダンス教室の子どもたちと

(インタビュアー：清水 眞理子)

アフリカ協会からのご案内

— 協 会 日 誌 —

事務局長 成島 利晴

1月15日～2月14日

01月15日 「第12回駐ブルキナファソ池崎大使を囲む懇談会」

1月15日（水）午後、国際文化会館会議室において池崎保・駐ブルキナファソ大使を迎え、同国の近況について伺う会を開催しました（会員企業等から出席者計29名）。先ず池崎大使より、同国の基本情報（政体と内政、経済、貿易、主要輸出品目、日本との関係、穏健な国民性、日本に親しみを感じる国民が多いこと、王族の存在が同国の安定に寄与していること、最近ではT I C A D7及び即位の礼などの機会の要人の訪日、特にT I C A D7の際のカボレ大統領の訪日時には同国の官民約130名が来日したことなど）について説明するとともに、最近の同国の概況（治安状況、内外避難民の増加、政治面では今年秋に大統領選挙と国政選挙を控えていること、テロ対策、民族和解等の今後の課題、日本の同国への開発協力の方針と草の根支援を含む実際の協力例、民間投資と企業支援などの諸点について説明がありました。

次いで会員企業等の出席者から、E C O W A S、U E M O A等の各種の域内統合の動きがあるが、右の進展が同国に与えるプラスとマイナスはどのようなものか、金の輸出が非常に伸びているが実際はどのように行われているのか、ゴマの対日輸出が増大しているが直接輸出するのか、太陽光パネルの普及の今後の在り方（援助で行うのか）、王族の役割について紹介があったが、彼らは何らかのビジネスをやっているのか、コンパオレ前大統領がコートジボワールに亡命したが、同国との関係は現在どのようなものか、在留邦人の規模、外交団の規模（例えばアジアでは何ヵ国が同国に大使館（実館）を有しているのか）、同国北部地域の治安状況は改善されているのか、首都周辺でのインターネットの使用は円滑に可能か否か、電力の状況（他国から買電しているのか）、水道の供給状況、火力発電の有無、などの諸点について質問が出されました。

01月31日 「第8回アフリカサロン」

1月31日夕刻より、外務精励会大手町倶楽部にて、講師に福田米藏元駐ジンバブエ大使をお迎えして開催致しました。（参加者15名）演題は「スワヒリに始まって。シヨナに終わったアフリカ—アフリカの経験とこれから」。福田大使が外務省に入省後初めて赴任したタンザニアからケニア・ウガンダを経てザンビア・ジンバブエとアフリカ各国を歴任したなかで、幾つかの失敗談や成功談など数々のエピソードをユーモアを交えながらお話頂きました。

02 月 05 日 日本モロッコ協会主催「第 6 回新春シンポジウム」

2 月 5 日午後、JX ビル 2 階講堂にて、「アフリカ経済の魅力と課題」～エネルギー・環境問題を見据えて～の議題で「アフリカ経済の実情と今後の方向にスポットを当て日本との相互協力関係を如何に促進していくか」をテーマにシンポジウムを開催致しました。来賓に高橋克彦外務省中東アフリカ局長をお迎えし、その後モロッコ始めザンビア・マラウィ・セネガル各国大使を交えて対談致しました。当協会は本シンポジウムを後援致しております。

今後の予定

02 月 15 日 「第 3 回高校生エッセイコンテスト表彰式」

日時：2 月 15 日（土）10 時から 11 時 45 分予定

場所：国際文化会館 地下 1 階 ルーム 4 号室

協賛：セイコーホールディングス株式会社

2019 年度第 3 回高校生エッセイコンテストに応募頂いた作品の中から厳正なる審査の結果、優秀と認められました作品を表彰致します。今回は優秀な作品が多く優秀賞 1 点のほか、特別賞 1 点、佳作賞 3 点及び奨励賞 1 点を表彰の予定です。

02 月 26 日 「第 8 回在京アフリカ大使との懇談会」

日時：2 月 26 日（水）14 時 30 分から 16 時予定

場所：国際文化会館 4 階 403・404 号室

在日アルジェリア大使モハメド・エル・アミン・ベンシェリフ閣下をお招きして、アルジェリア民主人民共和国の政治・経済について講演頂きますので、多数のご参加を期待しています。

03 月 03 日 「第 13 回前駐モザンビーク池田大使を囲む懇談会」

日時：3 月 3 日（火）14 時から 15 時 30 分予定

場所：国際文化会館 4 階 404 号室

在モザンビーク共和国日本国大使館の池田敏雄前大使をお迎えして、モザンビーク共和国の政治・経済情勢を中心に懇談致します。

03 月 21 日 「第 8 回世界一楽しいアフリカ講座」

日時：3 月 21 日（土）13 時 30 分から 17 時予定

場所：JICA 市ヶ谷地球ひろば 2 階 国際会議場

第一部では、アフリカ協会特別研究員の武藤一郎氏をお迎えして「アフリカのサバンナにおける牧畜と農業」について、又第二部では、JASPORA の Sena Voncujoyia 氏による「日本とガーナのダブルの目からみた日本とアフリカ」の講演を予定しております。又講演の後は主催の萩原孝一氏をモデレーターにパネルディスカッションを開催致しますので、皆様多数のご参加を期待しております。

03 月 24 日 「第 14 回駐セネガル新井大使を囲む懇談会」

日時：3 月 24 日（火）14 時から 15 時 30 分予定

場所：国際文化会館 4 階 404 号室

在セネガル共和国日本国大使館の新井辰夫大使をお迎えして、セネガル共和国の政治・経済情勢を中心に懇談致します。